

-Index-

紙上報告「第10回みみネットアカデミー」
Group Transcribe（音声からテキストへの文字起こしアプリ）
チャレンジ！発音指導⑧



紙上報告

第10回 みみネット アカデミー

令和4年1月7日（金）に、「第10回みみネットアカデミー」を開催いたしました。参加者のアンケートとともに、研修会の概要を報告します。

Lesson 1 「神経心理学から見た脳とことば

～ヒトはどのように ことばをつかっているのか～

講師 金森 雅（本校小学部教諭）



今回の講義では、神経心理学（脳の機能と心の働きとの関係を知ろうとする学問）の視点から、ことばの障がいと脳の働きについてお話ししました。

ことばを話したり理解したりするメカニズムや、読み書きのメカニズムについて、画像や動画を視聴しながら、理解を深めることができました。

- ・専門的なお話が聞けてよかったと思います。また、事例を出していただきわかりやすかったです。
- ・ことばを発するときに脳と関わりがあることは聞いたことがあったが、損傷の場所によってできないことや、やりにくいことがあると知り、驚きました。
- ・大学の授業を思い出し楽しかったです。もし第2回があるのなら今回のことをふまえて子どもへ活かしたら良いのか教えて欲しいです。

- ・特支免許の領域追加で聴覚のことを最近受講したところですが、手話の歴史や耳の構造の部分がクローズアップされていて、脳についてはさらっとでしたので、知らない部分を知れてよかったです。
- ・構音運動プログラムがよくわかった。
- ・ブローカやウェルニッケなど、はじめて耳にする単語がたくさんでした。聴覚の研修自体もはじめてだったので、実際の音源・動画があり、すぐわかりやすかったです。ありがとうございました。
- ・「きいて分かること、そしてことば（音）になること」「見て分かること、そしてことば（音）になること」のちがいがよく分かりました。自分でももっと調べ、さらに学びを深めたいです。

Lesson 2 「手話の世界を覗（のぞ）いてみませんか」

講師 堀谷留美（本校首席） 古樋咲世（本校聴覚支援センター教諭）
志村昌彦（本校小学部教諭） 明石慈英（本校中学部教諭）

手話とは何か？についての概論をお話しするとともに、手話のワークショップを行いました。概論では、日本手話と日本語対应手話、手話の文法、言語を使うときの脳の活動等についてお話ししました。ワークショップでは、「学校で使えるプチ手話講座」として、学校ですぐに使える簡単な手話について学びました。



- ・学校で使えそうなたくさんの手話を教えてもらい有益でした。
- ・手話に関しては、はじめてでしたので、色々かかせて頂きありがとうございました。
- ・実際に手話や表情をしてみて、わかることも多かったです。楽しく覚えられました。
- ・なかなか知っているようで知らない学校の手話を学べて良かったです。
- ・手話をもっと学びたい、覚えたい、使いたいと思いました。

- ・堀谷先生の手話の概要がすごくおもしろく、前のめりになる程、きき入っている自分がありました。全く手話がわからないので、すごく興味深かったです。
- ・手話が分からなくてもジェスチャーや表情で伝わる部分もあるので、コミュニケーションをたくさん取れるように表情豊かになろうと思いました。
- ・今まで手話について知りたと思っていたので、今回の講座で学べてとても満足しましたし、さらに世界を広げたいと思いました。
- ・たのしく手話を学べました。手話を覚えてつかうことにいっぱい、表情をつける余裕がありませんでした。これからは表情も大切にしていきたいです。

リアルタイムで音声からテキストへの文字起こしと翻訳を行う iOS

Group Transcribe (Microsoft)

現在、リアルタイムで音声文字変換が行えるスマートフォン用アプリは複数あります。今回ご紹介するのは、Microsoft Garage のプロジェクトの1つである「Group Transcribe」です。対面での会話におけるリアルタイム文字起こしが可能です。

文字起こし

- ✓ 高品質な自動文字起こしが可能です。
- ✓ 文字起こしは、自動的に保存されていきます。
- ✓ 以前の文字起こしを、ホーム画面で閲覧、表示することも可能です。

外国語対応

- ✓ Group Transcribe は、80 以上の国と地域で使用されている言語に対応しています。
- ✓ 外国語の授業では、該当する言語を選択することができます。

アプリを使用するには、アプリをダウンロードし、右下の「開始」をタップします。タップ後、しばらく待つと、セッションが開始されます。スマートフォンに向けて話した会話の内容が、文字として表示されていきます。



Bluetooth、スキャン可能な QR コード、またはリンクの共有などによって、複数人で文字起こしの内容を確認することができます。

セッション画面の右下（追加マーク）をタップすると、QR コードが表示されます。また、セッション画面内に表示される会話コードを入力することによって、共有可能です。その他、文字入力して表示するなどの機能もあります。

Microsoft 社ホームページ

<https://www.microsoft.com/ja-jp/group-transcribe/>

チャレンジ！発音指導 ⑧

今回は、発音の4つのプロセス（①呼吸、②発声、③共鳴、④構音）のうち、④構音について取りあげます。構音とは、声帯、舌、下顎、口唇、口蓋などの協調運動を調節することで様々な音を産生することです。この段階では、非常に細かな口唇や舌の動きで音を出し分けています。

児童生徒の音声をきいて、指導を行うときに、つついきこえてくる音に構音訓練としてアプローチしようとしてしまいますが、これまでお話した、呼吸・発声・共鳴という各段階での問題も大きく影響しています。構音の指導を行うにあたっては、そのベースとなる**呼吸・発声・共鳴の段階をしっかりとクリアしておく**必要があります。また、聴覚障がいがある児童生徒に指導する場合は、まず、**聴力がどの程度入力されていて、どの程度音が弁別できているのか**を知っておく必要があります。

例えば、高音域の聴力低下がある場合、母音や有声音ははっきりきこえるのに、無声摩擦音（さ行やしや行音）はきこえにくいことがあります。そういった場合には、指導を行う際に音声入力のみにも頼るのではなく、他の感覚器官（触覚、視覚など）を使いながら、構音点を図で示すことや、舌圧子、ウエハーなどを用いて触れさせながら、指導を行っていく必要があります。

では、次回からは、実際の訓練法についてお話していきます。

「みみネット」編集部：

大阪府立中央聴覚支援学校 聴覚支援センター 担当：中咲、金森
〒540-0005 大阪市中央区上町1-19-31
TEL. 06-6761-1419 FAX. 06-6762-1800